



今月の話題

- アジア・大洋州地球科学学会第10回総会出席
- ネパール訪問
- 元研修生論文掲載情報
- IISEE同窓会ウェブサイト閉鎖のお知らせ
- 個人研修便り
- IISEE よくあるご質問

研修 データベース

IISEENET (地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース (修士論文概要)

Bulletin データベース

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ (世界の地震被害)

地震カタログ (世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

アジア・大洋州地球科学学会第10回総会に出席

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎



オーストラリア・ブリスベン風景

平成25年6月24日から28日までオーストラリア、ブリスベンで開催されたアジア・大洋州地球科学学会第10回総会に参加し、「沈み込み帯における高速破壊とゆっくり地震」というセッションで、「高速摩擦を考慮した千島海溝沖の巨大地震の3次元準動的地震発生サイクルモデル」という題名で、研究成果を発表しました。

本会議にはアジア・大洋州からの地震研究者が多数参加しました。来年の総会は、平成26年7月28日から8月1日までの間、日本の札幌で開催されます。卒業生の皆様も、会議参加のために是非日本に来て下さい。その際は、IISEEにもお立ち寄り下さい。お待ちしております。

ネパール訪問報告 一再会を喜ぶ

国際地震工学センター長 横井 俊明

平成25年7月7日から11日まで、都市開発省都市開発建設局(DUDBC)、鉱山地質省国立地震センター(NSC-DMG)その他多数の関係機関との打合せ会合のため、ネパールのカトマンズを訪れました。

鉱山地質省国立地震センター(NSC-DMG)では、元研修生の Mukunda Bhattarai 氏(2004-2005 地震学コース)、Lok Bijaya Adhikari 氏(2002-2003 地震学コース)、Sherestha Prithvi Lal 氏(2009-2010 年 地震学コース)、Umesh Prasad Gautam 氏(2010 年グローバルコース)に再会しました。

都市開発省都市開発建設局では、局長が、元研修生の Mahendra Subba 氏(1990-1991 地震工学コース)でした。うれしい偶然です。またそこで、Binary Charan Shrestha 氏(1995-1996 年 地震工学コース)にも会うことができました。

IISEEの元研修生の活躍を目のあたりにし、とても嬉しく思います。これからも彼らとつながりを IISEE の財産として大事にしていきたいと思ひます。

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



鉾山地質省国立地震センターにて



元研修生の Mukunda 氏 (左側)

元研修生論文掲載情報—中国、インド、ネパール

国際地震工学センター 管理室長 飯場 自子

IISEEでは、元研修生からの論文掲載情報を歓迎します。

今回は、下記の3名から連絡を頂きました。

- ①イーフェイ レン氏 (2011-2012 地震工学コース 中国出身)、
- ②ヒマングシュ マンダル氏 (2005-2006 地震学コース インド出身)、
- ③ムクンダ バッターリ氏 (2004-2005 地震学コース、2008 セミナーコース ネパール出身)

レンさん、マンダルさん、バッタリさん、ありがとうございます。

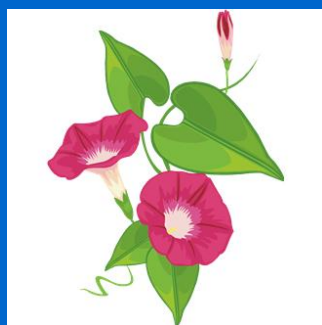
皆様も是非論文が掲載されたらIISEEまでご一報下さい。ご連絡の際は、皆様の氏名、国名、参加年とコース名、掲載誌の名称・発行号・発行年月日、論文のタイトルを併せてお知らせ下さい。

| Name | Country | Year and Course | Name of Journal | Title |
|-----------------------------|---------|---|--|---|
| Mr. Yefei REN | China | 2011-2012 E-Course | Earthquake Engineering and Engineering Vibration (2013, Vol.12, 165-184) | "Site effects by generalized inversion technique using strong motion recordings of the 2008 Wenchuan earthquake" by Ren Yefei, Wen Ruizhi, Hiroaki Yamanaka and Toshihide Kashima |
| Mr. Himangshu Sekhar MANDAL | India | 2005-2006 S-Course | Journal of Asian Earth Sciences (2013, Vol.73, 440-451) | "Shear wave attenuation characteristics over the Central India Tectonic Zone and its surroundings" by H.S. Mandal, P.K. Khan, and A.K. Shukla |
| Mr. Mukunda BHATTARAI | Nepal | 2004-2005 S-Course, 2008 Seminar Course | Journal of Nepal Geological Society (2011, Vol. 43, 137-144) | "Capturing first records at the Nepal NSC accelerometric network" by M. Bhattarai, U. Gautam, R. Pandey, L. Bollinger, B. Hernandez and V. Boutin. |

* IISEE 同窓会ウェブサイト閉鎖のお知らせ

長い間皆様に親しまれていました同窓会ウェブサイトを、6月末をもって閉鎖致しました。これまでのご利用ありがとうございます。

平成21年度の導入当初は、元研修生・スタッフ等、多くの登録をいただきましたが、近年は他の連絡・交流方法の多様化等により利用者が減少し存続が難しい状況になっておりました。また、違った方法で皆様方の交流を深めていきたいと思っております。これまで、登録・利用いただきありがとうございました。



個人研修便り

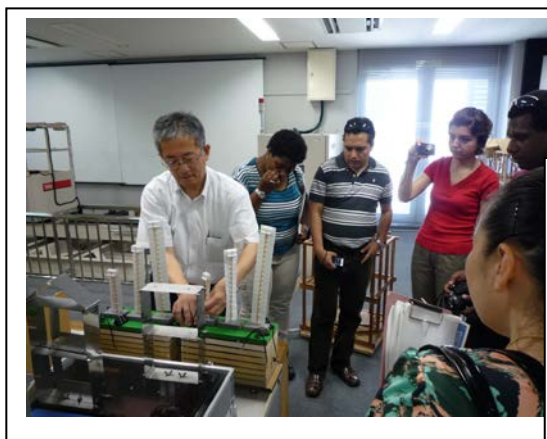
—論文作成真っ最中。今どのくらい?—

2012-2013年研修生は、6月1日から個人研修を開始し、現在約2カ月が過ぎました。6月～8月までの3カ月で修士論文を書き上げます。データを集め、現場を視察し、それぞれが、指導者と相談しながら、自分のやり方で課題に取り組んでいます。豊橋市や山口市といった遠方で指導を受けている研修生もいますが、今回の研修生はほとんどIISEE内で論文に取り組んでいます。場所も特に指定していないため、それぞれお気に入り場所があるようです。不思議なのは地震学コースの教室に陣取る面々。電気をつけず真っ暗な中で黙々とパソコンに向かっていきます。節電?いやいや理由はわかりません。心地よさはひとそれぞれですから。

7月18日(木)と同19日(金)には中間発表会が開催されました。



地震工学コースの研修生のうちアルメニア、ドミニカ共和国、ミャンマー、ネパール、パプアニューギニアの5カ国の研修生は、7月10日に国土交通省中部地方整備局のご厚意により、名古屋合同庁舎第2号館の地下1階に設置されている免震装置を見学させて頂きました。その様子は、当地の新聞にも取り上げられました。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

★IISEE に関するご質問にお答えします

Q. IISEE の研修に関心があります。研修内容や応募の手順について、詳しい情報を知りたいのですが？

A. IISEE の研修は、JICA(独立行政法人国際協力機構)の研修事業の一環として行われています。研修への応募の際には、次の要件を満たしていることが必要です。

1. 参加希望者の国が JICA に研修コースへの参加国として指定を受ける。
2. 参加希望者が、本国によって応募者として指名される。

1 と 2 の要件を満たした上で、参加希望者の国の JICA 事務所または日本大使館に応募して下さい。

JICA 事務所連絡先: <http://www.jica.go.jp/english/contact/overseas/>

Q. 研修に参加したいのですが、応募書類はどこで入手できますか？

A. 応募手順としては、まず、所属組織から応募者として指名を受け、政府を通じて JICA の現地事務所に応募書類を提出していただくこととなります。応募用紙は、応募者の政府または現地の JICA 事務所から、所属する組織を通じて入手してください。

JICA 海外事務所: <http://www.jica.go.jp/english/contact/overseas/>

Q. 研修に参加を希望する場合、満たさなければならない要件や基準はありますか？

A. IISEE の研修は JICA の研修プログラムの一環として行われています。応募を希望する場合は、応募者の国が JICA から対象国として指定を受ける必要があります。

応募者の必要要件は次のとおりです。

応募者の要件:

- (1) 自国の政府により、応募者として指名を受けていること
- (2) 地震学、地震工学、地震防災学、津波防災学の分野で学士の称号を有すること。または、理学、工学のそれ以外の分野で学士の称号を取得し、地震学、地震工学、地震防災学、津波防災学の分野で 3 年以上の実務経験を有すること
- (3) 微分、積分、偏導関数、微分方程式、行列、ベクトル代数、フーリエ解析等の高等数学に通じていること
- (4) 個人研修において、英語で研究報告を作成することが可能であること
- (5) 英語に堪能であること。目安としては、TOEFL 79 点(インターネット版)、213 点(コンピューター版)、550 点(ペーパー版)以上を取得しているか、または同等の能力を有すること
- (6) 22 歳以上 40 歳以下であること
- (7) 研修に参加するのに十分な健康状態であること (本研修のような長期間の研修参加にあたっては、妊娠の可能性も考慮すること)
- (8) 軍に所属していないこと

応募の際には、JICA 事務所または日本大使館にお問い合わせ下さい。

<http://www.jica.go.jp/english/contact/overseas/>

* その他詳細については、IISEE にお問い合わせ下さい。